



つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和6年 1月 15日
つばさだより 第11号

答えの出ない事態に耐える力「ネガティブ・ケイパビリティ」

2024年。令和6年となりました。本年もよろしくお願いいたします。新年となりましたが世の中は紛争や自然災害のニュースが絶えず、なんだか心もざわざわしてしまう年の始まりです。そんな中、ある新聞記事で「ネガティブ・ケイパビリティ」という言葉に出会いました。「解なき今を照らすために・答えを急がない力」の記事の中で作家・精神科医でもある帯木蓬生（ははきぎ・ほうせい）先生が紹介された言葉でした。帯木先生は記事の中でこの言葉の意味を「答えの出ない事態に耐える力・答えがでなくても問題に挑み続ける力」とし、まず「問題解決」をしていくことに強い力点を置く傾向の現代社会が、決めつけや社会事象、他者意見についての浅い理解、他者に対しての不寛容につながっていることに対して警鐘を鳴らす内容となっていました。

記事にもあるように周囲を見渡せば、私達をとりまく社会生活の中にはすぐに答えが出ないことに多く困まれていることに改めて気が付かされます。そして同時にこの視点は「人（子供）の成長・教育」にもそのまま当てはまることであると記事を読んで強く感じた次第です。「すぐに答えが出ない」このことは私たち大人や子供たちの成長過程であったり、他者への理解であったりもします。様々なことが日々多くのニュースとなった2024年の始まり。社会の中に、私たちの身近な生活の中にいろいろなことが起こります。「解なき今を照らすために・答えを急がない力」も大切にしつつ進んでいきたいと思いました。

変化の季節へ

1月のスタートです。10日よりつばさの指導も始まりました。各小集団指導では早速冬休みの出来事などをテーマトークのお題にして個々の出来事を共有しました。「年末はサンタさんやお家の人にこんなものをもらった。お正月はこんなテレビを見た。こんなところに行った。」など、それぞれの思い出を共有していきました。「みんなゲーム系のプレゼント多いね!」「あ、それ私も見た。」「それ、おもしろいよね。」「サンタさんは絶対いるんだよ!おれは最後まで信じてるんだ!」小集団での仲間関係もだんだん慣れてきていろいろな声が聞こえてきます。小集団指導の中ではこうした会話を通して互いに自分を出せる。相手の意見を聞ける関係性を育てていきますが、1月が始まり3月に向け進級、進学等の「変化の季節」が訪れます。そうした中で互いに思ったり感じたりする関係性をさらに良いものにみんなで作って成長していきたいと思えます。

お知らせ

- ・第3期の個別指導計画を1月後半に配布する予定です。
- ・3月に今年度最後の保護者会を予定しています。日程については近日中にお知らせいたします。

